

埼玉県租税教育推進協議会会長賞

『未来の私達へ』

宮代町立百間中学校 3年 片山 静嘉

私は学校の授業が好きだ。そんな授業に欠かせない教科書。多くの教科書の裏表紙にはこのようなことが書いてある。「この教科書は、これから日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

けれど、実際の学生達の教科書の扱い方はどうだろうか。誰しもが、教科書を折り曲げたり丸めたりした経験、あるいはそのように教科書が扱われている場面を見たことがあるだろう。私はそのような場面を見ると毎回、「見知らぬ誰かが必死に必死に働いたお金でこの教科書をもらっているのに、なぜそのように扱うのだろう。」と疑問を抱くと同時に悲しさを感じていた。

ある日、ふとした瞬間に見たテレビで、あるコマーシャルが私の目に留まった。そのコマーシャルは、アフリカの国々の子供達が十分な教育を受けられていないという内容だった。以前から、教育が十分に受けられない子供達がいることは知っていたが、あまり深く考えたことはなかった。だが、税の作文を書くとなった今、他の国の教育はどうなっているのだろうと疑問に思い、アフリカの教育について調べることにした。そして、私はある記事を読んだ。それは「タンザニア」という国のことだった。なんとタンザニアでは、教科書が学校に存在しないということが多くあるそうだ。そのような学校では、教師が隣の学校まで足を運び、ボロボロのノートに教科書を模写し、それを利用し、授業をするという。私はこの記事を読んだとき、驚きのあまり、「えっ。」と声を出さずにはいられなかった。普段、私達は必ずといってよいほど授業に教科書を使うし、教科書という存在は、私が小学校、中学校で過ごしてきた九年間で、あって当たり前なものとなっていた。今の私には教科書が無い授業など想像ができないのだ。また、私はその教科書の普及の低さで、子供達は十分な知識を得ることができているのだろうかと疑問に思った。タンザニアは女子を中心に教育を受けることができない子供達が多くいるのだ。学校に行ける子供が限られているにも関わらず、学校の教育設備が不十分だと、学校に行った子供も将来のためになるような知識を得られずに大人になってしまう。そうなると、タンザニアという国の未来が危うい。

日本では乱雑に扱われてしまう教科書。その教科書は、世界中のどこかでは欲しくて欲しくてたまらない存在なのだ。このような世界の子供達の思いを知ったならば、もう少し教科書を大切に扱う日本の学生達も増えるのではないだろうか。教科書の裏表紙に書いてあるよう、私達はからの日本の担い手として期待されているのだ。その期待に応えられるよう、私達の明るく幸せな未来へと歩んでいこう。「教科書」という、私達の相棒と共に。